

夏ギャルの誘惑

～実家に帰ったら姪っ子がセックスさせてとせがんできた～

2021 ないちんげーる

//トラック1

「あっ、お義兄さん。ほんとに帰ってきてたんだ」

「あれ？ わかんない？ あたしだよ、姪のはすみ。まさか、こんな可愛い姪を忘れちゃうわけないよね？」

「ふふっ、ほんとかな…。まあ、いつか。せっかく久しぶりに会ったんだし、ちょっとお話ししようよ。隣座るね」

//(ヒロインが隣に座って、一緒に雑談するシーン)

「ん、つしょ…」

「お母さんから聞いたよ、お義兄さんが近々帰ってくるって…ほんとだったんだね」

「…それじゃ、いつものやつ…。お、み、や、げ、あるんでしょ？ あるよねえ？」

「え～ないの～、いつも楽しみにしてたのに…」

「そっか、そういえばお義兄さん結婚したんだっけ…」

「それなら忙しくてお土産買えないのも仕方ないよね…」

「そうだ！ それじゃあさ、お土産の代わりに新婚生活の感想聞かせてよ。新婚なんだから、ラブラブなんでしょ？」

「ほらやっぱり…！ 聴いてるこっちが恥ずかしくなるくらいラブラブそうじゃん。奥さんのこと大好き？ 愛してる？」

「あはは、ぞっこんじゃん…って、そういえば奥さんは？ 一緒に帰ってきてるんじゃないの？」

「へ～、事情があって後からこっち来るんだね」

「じゃあ今はお義兄さんだけなんだ～。それならもうちょっと話相手になってよ。ちょうど聞いて欲しいこともあるし」

「実はさ～、最近まで付き合ってた彼氏と別れちゃって…」

「こうゆう話はむしろ親とかよりお義兄さんくらいの立場の人の方が話しやすいの。いいからいいから。…それで、最近寂しいっていうか、溜まっちゃっててさ…」

「何って…」

「性欲だよ、せ、い、よ、く…。お義兄さんはどお？ 溜まってない？」

「ふふっ、冗談だよ。うそうそ…そんなにムキになっちゃって、本気にしちゃった？」

「そうだよね。お義兄さんには大好きな奥さんがいるもんね」

「…あれ？ お義兄さんなんかめっちゃ汗かいてない？ …暑いなら中、入ろっ。扇風機あるから涼しいよ」

//(室内に移動して涼みながら雑談を続けるシーン)

「中入ったら、冷たい麦茶出してあげるね」

「ほら、お義兄さん座って？」

「あたしも隣座るね」

「もしかしてまだちょっと疑ってる？」

「もうさっきみたいなことはしないよお。だいじょーぶだいじょーぶ」

「お義兄さんてば警戒心強すぎ…。麦茶注いであげるから、飲んで落ち着こ？」

「はい」

「…んっ、んぐ、んぐっ、ぐ…っはあ…っ」

「あたしも喉乾いてたから、つい沢山飲んじやった…」

「お義兄さんも負けじとすごい飲みっぷりだね。そんなに暑かった？」

「あ、そういえば、扇風機着けてなかったね」

「さ～て、落ち着いたところでお義兄さんにしつもん。正直に答えてね」

「…今、ちょっと興奮してるでしょ？」

「質問に質問で返しちゃダメだよ…？ 特別に教えてあげるけど、さっき冗談って言ったのはお義兄さんをからかうための嘘…ふふっ」

「それともう一つ…」

「あたしは今すっごく興奮してるよ…どお？ お義兄さん、しない？」

「とぼけちゃって、やだなあ…ほんとは分かってるんでしょ？」

「えっちなことだって…。

ね？ いいじゃん。姪だけど、若くて可愛いJKのおまんこタダで使えるんだよ？
嬉しくない？」

「まーだ奥さんが、とか言ってる……。

あたしとはお互い気持ち良くなるためだけの割り切った関係。
だから～浮気になんてならないよ」

「それに、あたしはお義兄さんに何の恋愛感情も持ってないし、ただ溜まった性欲
発散したいだけ」

「あれ？ それともお義兄さんはあたしのこと本気で好きなの？
ふふっ、そんなわけないよね？」

「もお、お義兄さん固いなあ…。

じゃあさ、ちゅーだけっ。ちゅーだけならいいでしょ、ねっ？」

//(キスから始まり、やがてヒロインが押し倒しディープキスに発展するシーン)

「ふふっ、やっと素直になってくれた。ここまで折れたんだから、た～っぷりちゅー

させてよね...っ！ ほら、こっち向いて？」

「んちゅ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅう、ちゅっ...！ ちゅ、ちゅっ、ちゅ、ちゅう、ちゅっ...！ ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅ、ちゅ...っ！」

「久しぶりだからちゅーだけでもすっごく興奮しちゃう...っ」

「んちゅうつ、ちゅうう、ちゅう、ちゅうう、ちゅううつ...！ ちゅう、ちゅうう、ちゅうう、ちゅう、ちゅうつ...！ ちゅう、ちゅう、ちゅうう、ちゅう...っ！ ちゅうつ、ちゅう、ちゅ、ちゅう、ちゅうう、ちゅうつ！」

「...あたし、ちゅー大好きなんだあ...だから～、もつとしよっ？」

「ちゅっ、ちゅう、ちゅう、ちゅうう、ちゅ、ちゅうう...っ！ ちゅ、ちゅう、ちゅう、ちゅ、ちゅうう...っ、ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅ、ちゅう...ちゅうう、ちゅう、ちゅううつ...ちゅっ、ちゅう、ちゅう、ちゅう...っ！」

「...っはあ...っ、お義兄さん、ちゅー上手いね...ちゅーだけでこんなに気持ちいの、お義兄さんが初めて...」

「ちゅっ、ちゅ、ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅ、ちゅう、ちゅう、ちゅう...っ、ちゅう、ちゅう、ちゅうう、ちゅうう...」

「...ん、ちゅ、ちゅっ、んはあ、はあ、んう、ちゅ、ちゅう、ちゅ、んっ、んう、ちゅう、ちゅう...っ、ん、ちゅ、ちゅう...。...はあ、もつと、もつと...っ」

「ふふっ、ごめんね...つい押し倒しちゃった...っ。でもちゃんとちゅーだけで我慢するから、はやく続きしよっ...？」

「...ん、ちゅ、ちゅっ、んはあ、はあ、んう、ちゅ、ちゅう、ちゅ、んっ、んう、ちゅう、ちゅう...っ、ん、ちゅ、ちゅう...んっ、ちゅっ、ちゅ、ちゅう、ちゅう、ちゅ、ちゅう...っ、はあ、ん...」

「おにいはん、ひた...ちゅう、ちゅ、ちゅう...ほら、ちゅ、ちゅう、ひた、入れて？ ちゅ、ちゅう、ちゅう、ちゅう...っ」

「...んう、れろお...っ、れるれろお、れろれろっ、れるれるれるれろ...れろれるう、れろれるれろれろお...っ、れろ、れろれろれろお...っぶあ...」

「え～ディープキスはダメって...舌同士のちゅーでもちゅーはちゅーだよ？ あたしが舌入れてって言ったら入れてくれたんだから」

「いいってことじゃないの？ お義兄さん？」

「そんなこと言って...んちゅ、ちゅ、んれろお...っ、れろれるう、れろれろれうれろお... まんざひやへもないくへに...れろれるう、れるれろれろお...っ」

「...んれろお...っ、れるれろお、んっ、はあ、れろれろおっ、れるれるれるれろ...れろれるう...っ、はあっ、んっ、れろれるっ、れろれろお...っ、ん、んう、れるれろおっ...っぶあ...」

「...あれ？ お義兄さん、乳首勃ってんじゃん。ちゅーしてただけなのにおかしいな～」

「ほんととはこうやって...」

「ちゅーしながら、んちゅ、ちゅう、ちゅう...乳首弄られたかったんでしょ。抵抗するどころか、身体びくびく反応しちゃってるよ？ 図星なんだねえ。」

ふふっ、もっとしてあげるからね」

「...んれろお...っ、れるれろお、んうっ、はあっ、れろれろおっ、れるれるれるれろっ... れろれるう...
っ、はあっ、んっ、んう、れろれるっ、れろれろお...っ、ん、んう、
れるれるれるれう、れろれろれるれろお...っ、はあ、はあっ、んんう、れるれろおっ、 れるれろお、
れるれうう、れろれろお...っふあ...」

「...ちゅーするだけだったはずなのに、べろちゅーしながら乳首弄られて、すっかり
感じ ちゃってるお義兄さん情けな〜い。
快楽には勝てないんだね〜。ほら、ちんぽもすっかり勃起しちゃって、さっきから
あたしの足に当たってるよ？ やっぱり性欲溜まってたんじゃん」

「ねえ、どうする？ しちゃう？ えっ、ち...」

//(ヒロインがコンドームを着けてあげ、騎乗位でエッチするシーン ヒロイン優位)

「ちんぽこんなにしてまだためらってるの？」

「もう、お義兄さんはしょうがないんだからあ...」

「うわっ、もうこんなにガチガチじゃん。こんなにしてよく奥さんを裏切れないとか
言えたよね。
奥さんのことなんか考えなくていいのに。今は自分が気持ち良くなることだけ考えよ？
だからさ、一回だけ...！ ちゃんとゴムも着けるし、ねっ？ しょっ？」

「ふふっ、やっと気持ち割り切れたみたいだね。それじゃ、ゴム着けるから
じっとしてて」

「あ、これ？ こういう時のためにいつも持ってるんだ〜」

「いつえっちするかなんてさ、自分じゃ分かんないじゃん？」

「ビッチって、ちょっとひどくない？ これがなかったら、お義兄さんあたしと生でするとこだったんだ
よ？ むしろ褒めて欲しいなあ」

「まあ、あたしは生でも全然良かったけど...ふふっ。
これでよしっ、と...サイズ不安だったけど案外ぴったりだったね」

「じゃあ、このままあたしが上になって入れちゃうね...っ」

「...はあ...っ、ああっ、す、すごおっ...！ はあ、はあっ、ああっ、んっ、あっ、
あん...っ！ はあ、はあっ...お義兄さんのおつきなちんぽ、全部入っちゃったあ...」

「あっ、はあっ、はあっ、あっあっ、ああっ、あんっ...あはあっ、はあ、ああ、
ああん...っ、やっ、やあ、ああ、あっあっ、ああっ...！ や、やっぱあ...っ、
お義兄さんのちんぽめっちゃ好きかもっ...」

「あっ、はあっ、はあっ、んん、んうっ、はあっ、あっあっ！ ああっ、あんっ...あっ、 はあっ、んはあ、
ああ、んあっ、ああん...っ、やっ、んっ...！ やあ、はっ、ああっ、 あっあっ、ああっ、あん...！
んう、んん...っ、はあっ、ああ、んあっ...！
動いてるだけで奥に響いて...っ、こんなの初めてっ...大人ちんぽすごお...」

「あっ、はあっ、はあんっ、んん、んう...っ、はあっ、あっあっ！ ああっ、あっ、 あっ、あんっ...！
あっ、はあっ、んっ、はあ、ああっ、んあっ、ああ...んっ、
やっ、んんっ...！ やあ、はっ、ああっ、あっあっ、ああっ、あん...っ！」

「はあ、はあつ、気持ちいい...っ、はあ、ああつ、んうっ、きもちいよお...っ！ ... はあつ、はあ、はあ...
...どお？ 奥さん以外の人とエッチした感想はあ？ 気持ちいい？」

「もお、お義兄さんは素直じゃないなあ...その見栄、いつまで続くのか楽しみ...っ」

「あつ、あんっ！ んあつ、ああつ、あつ、あつ...！ はあつ、はあつ、んん、
んうっ...！ はあつ、んはあ、はあつ、あつああつ！ んあつ、あつ、んうっ、
ああつ、はあつ、はあつ、ああんっ...！」

「はあ、んう、はあ、ん...っ、お、お義兄さんちよ～もったいないよお...こんな立派な
ちんぽ持ってるくせに奥さんとはエッチしないなんて...」

「まだそんなこと言ってるんだあ...はあ、あんっ、あつ、んっ...。
奥さんのこと思ってるのはいいことだけど、お義兄さん今、奥さん以外の人...それも
姪のあたしとえっちしちゃってるよ？ ふふっ...。さすがにそれじゃあ説得力ないん じゃないか
なあ...っ」

「...ん、んんう、はあ、はあつ...いつまでも奥さんのこと考えてたら気持ち良くなる
ものもならないよ？ だから～...」

「んちゅっ...！
...今は気持ち良くなることだけ考えよ？」

「あつあつ、はあつ、ああつ、あんっ！ んっ、んんっ、んあつ、はあつ、ああつ、 んあつ、ああ...
っ！ んっ、やあつ、あつ、ああつ！ んん、はあつ、はあつ、んう、 あつあつ、ああん...っ！ ああ、
はあつ、ああつ、あつあつ、ああん、んあ、あつ、
あん...っ！ ...はあ、はあ...っ、お義兄さん、息荒いし変な声出てるよ？
どうしてかな～？」

「ほら、やっぱり気持ちいいじゃん...最初から素直に認めれば良かったのに...。
でも...やっと素直になってくれたお義兄さんには、ご褒美あげなくちゃね」

「あつあつ、はあつ、ああつ、あうっ、あつ、あんっ！ んっ、んあつ、あつ、ああつ、はあつ、はあつ、
んっ、んう...っ！ あつ、あうっ、あうっ、んあつ、ああつ、あつあつ！ はあつ、はあつ...」

「はあつ、ああつ、あつ...どお？ さっきよりも激しいの...気持ちいいでしょ？ あつ、はあつ、ああん...
っ、あつ、あつ！ おっ、お義兄さん...っ、手、繋いで？」

「お義兄さん、恋人繋ぎなんて大胆だねえ...あたしはこっちの方が好きだからいいけど、お義兄さん
はいいの？」

「ふ～ん、吹っ切れちゃったんだ...あたしたち恋人同士でも、好き同士でもない、
エッチするだけの関係なのに恋人繋ぎしながらエッチしちゃってるねえ...これって
すごく興奮しない？」

//(フィニッシュシーン)

「ふふっ、気持ちよすぎて答える余裕なんてないか...はあつ、んんう...っ、あああ...っ！ ちんぽ、
さっきよりもおっきくなって中で震えてる...。ねえ...？ んう、はあ、 はあつ、ああつ、ああ...っ、
イ、イきたいんでしょ？ いいよ...このまま出して...」

「あつあつ、んんうっ、はあつ、ああつ、はあつ、あうっ、あつ、あんっ！ あつ
あつ、ああつあつ！ んっ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ...！ はあつ、 はあつ、んっ、んう
...っ！ んんっ、あつ、あうっ、あうっ、んあつ、あつあつ！ ああつ、あつあつ！ はあつ、ああつ、
はあつ、ああんっ、はあん...っ！」

「はあつ、はあつ、ああつ、あつ！ あつ！ ああ...んっ...！ 出して...っ！

「はあっ、ああっ、あんうっ...！ んう、んんう...っ、このまま一緒に気持ち良くなるっ？」

「はあっはあっ、あっあっああ...っ！ んっ、んうっ、はあっ、ああっ、あっあっ！ はあっ、あうっ、んあっ、あんっ！ あっあっ、ああっあっ！ んっ、んあっ、うあっ、んう...っ、あん、んんうっ、あっああっ...！ はあっはあっ、んっ、んう...っ！ んんっ、あっ、あうっ、あうっ、んあっ、あっあっああっ！」

「はあっはあっ、ああああっ...っ！ あっあっああっ...！！」

「...っはあっ、はあ、はあ...っ。
...出てる...っ。ゴム越しでもはっきり分かるくらい出てる...」

「...はあ～～、お義兄さんのちんぽ、さいつ、こうに気持ち良かったあ...っ！
今までで一番気持ち良かったかも...けど、残念ながらあたしをイかせることは出来なかったね、ふふっ」

「う～ん、何人とエッチしてきたかなあ...分かんないや！
そんなのいちいち数えてないし」

「うわっ、すんごい出てる...っ。せーしの量も過去最高更新してるよ、これ...。
もしかしてお義兄さん、奥さんにご無沙汰だった？」

「へ～、お義兄さん、エッチできないときでもオナニーしないんだあ。
そんな奥さん思いなのにあたしとエッチしちゃったねっ...！
しばらくこっちいるんでしょ。溜まってたらまた声かけてよねっ？」

//トラック2

//(縁側でくつろいでいるとヒロインが後ろから忍び足で近付いてきて抱き着かれ、そのまま誘惑されるシーン)

「おに～さん、ふ～っ...」

「ふふっ、驚いた？ 縁側で呑気にたそがれてたから声かけちゃった。なにしてんの？」

「もお、そんなに露骨に嫌がらなくてもいいじゃ～ん。ちょっと後ろから抱き着いてるだけなのに...」

お義兄さん、あの日以来あたしのことわざと避けてない？ もしかして気まずいとか、奥さんに悪いことしちゃったなって思ってる？」

「そっか～、お義兄さんてほんとにまじめなんだね～」

「えらい、えらい...っ」

...まあ、もう既にあたしとエッチしちゃってるから後悔しても遅いんだけどね、あははっ...！」

「もお、そんな怒らないでよ。ほんとのこと言ってるだけじゃん」

「え～、離れろってひどくな～い？ こんなに可愛いJKの姪が抱き着いてるのに... それにこう見えてもあたし、結構いい身体してると思わない？ おっぱいとか大きいし」

「ほらほら～...！」

「胸当たってるって...わざと当ててるんだよ。お義兄さんてば鈍感だな～」

(耳舐めから徐々にいやらしい雰囲気になり、全身リップに移行するシーン)

「どう？ 興奮してきた？」

「なあんだ、興奮してないんだ...そろそろお義兄さん溜まってきてるかな～と思ったんだけどな」

「...ねえ？ほんとに興奮してない？」

「ほんとのほんと...？」

「そっか～、じゃあ...っ」

「れろお...っ」

「ひゃっ...！急に大きい声出さないでよお、びっくりしちゃったじゃん... せっかく耳綺麗にしてあげようと思ったのに」

「どうしてそんなこと言うの～？ お義兄さんつれないなあ」

「...もしかして耳舐められたら興奮しちゃう変態さん...？ れろれろお...っ」

「ふ～ん、興奮しないんだあ。それならもっとしてもいーよね？」

「れろお...っ、れっろお、れろれるれろお...っ、れろおっ、れろっ、れろお...っ」

れるっ、れろれろお、れろ、れるれろっ、れろれろおっ...

もお...！ お義兄さん動いちゃだ～め...っ！ 耳綺麗にしてあげてるんだからじっと

してて」

「れろっ、れろお...っ、れろおっ、れろっ、れろれろお...っ、れるれろおっ...れろおっ、れろっ、れろおお...っ。れろれるう、れるれうれろれろお...っ、れろれろお、れろお、れろお、れろれるう...っ、れるれろっ、れるれろれろおっ...」

「んっ、れろお...っ、んう、んっ、れろおっ、れろれるれろお...っ、はあ、んれろおっ、れろっ、んう、れろお...っ。れるっ、ん、れるれろれろお、はあ、んんう...っ、れろっ、れるれろっ、れるれろれろおっ...」

「耳ぴくぴくしてるよ？ 舐められて嬉しいのかな？」

「んう、れろお...っ、んう、れろおっ、れろれるう...っ！ れろお...っ、れるれるれろお...はあ、んっ、れろおっ、れろおっ、んう、れろお...っ。れるうっ、ん、れるう、れろれろお...っ、はあ、んんう...っ、れろおっ、れるれろおっ、れるれるう、れうれろれろおっ...」

「心配しなくてもちゃ〜んとこっちもやってあげるからね〜。ふう——」

「頼んでないって...まあだそんなこと言ってる...ほんとに期待してたんでしょ？」

「んれろお...っ、れろおっ、れうれるれろおっ、れろっ、れろっ、れろお...っ、れるれうれろおっ...れろおっ、れろっ、れろおお...っ。れろれるれるうう...っ、れるれううっ、れうれるっ、れるれろお...っ、れろれろお、れろお、れろおっ、れろれるれろお...っ、れるれろっ、れるれろれろおっ...。もしかしてお義兄さん、こうやって耳舐められるの好き？」

「はぐらかしちやって可愛い...っ」

「んっ、れろお...っ、んう、んっ、れろれろおっ、れろっ、れるう、れろお...っ、はあ、んう、んれろおっ、れろっ、れろお、れろ、はあん...っ、んう、れろお...れるうっ、んっ、れるう、れるれう...っ、れろっ、れろお、れろれろおっ、はあ、んんう...っ、れろっ、れるれろっ、れるれろれろおっ...」

「んうっ、れろお...っ！ んう、はあ、れろおっ、れろれるう...っ！ れろお...っ、れるれるう、れう、れるう、れろお、れろおっ...！ れろお...はあ、んっ、れろおっ、れろおっ、はあんう、れろお...っ。れるうっ、んっ、れうれるう、れろれろお...っ！ はあ、んう...っ、れうれるれろおっ、れるれろおっ、ん、んう、れろれるれううっ、れろれろれるれるう...！ れうれろれろおっ...。あれ？ お義兄さん、汗かいてな〜い？ まさか、興奮して出た汗なわけじゃないよね？」

「なあんだ、暑いからかいた汗かあ...あたしってば、勘違いしちゃった。...それならさ、このままあたしが全身綺麗にしてあげよっか？ お義兄さんも汗かいてたら気持ち悪いでしょ？」

「遠慮なんかしないでいいから、ほら、あっちいこ...っ！」

「お義兄さん、服脱いでここに寝てくれる？」

「脱ぐのは上だけだよ、お義兄さん。もしかしてなんか勘違いしちゃった？ そんなわけないよね」

「お義兄さん汗ぐっしよりじゃん、結構暑がり？ それとも...興奮してたの必死に我慢してたからかな？ ...まあ、この際どっちでもいいけど、ふふっ...」

「んっ、しょ...。こうしてお義兄さんの上に乗るの、この前振りだねっ...この前のことちょっと思い出しちゃった。...さて、と...どこから綺麗にしようか...お義兄さんはどこからして欲しいとかある？」

「どこでもいいだなんてちょっと困っちゃうなあ...耳はさっきやったし～」

「うーん...。
あつ、それじゃつ、首からやっていこうかな」

「れろお...つ、れろつ、れろれろれろお...つ、れろつ、れろつ、れろお...つ。れろつ、れろれろお、れろつ、れるれろつ、れろれろおつ...」

「お義兄さんがどこでもいいって言ったんじゃない。今更文句言ったってもう遅いよ」

「れろつ、れろつ...おにいさんのあせえ、れろお...つ、ほんのりしょっぱくてえ、れろつ、れろお、美味しい...つ。
...次は～、もう少し下に行って...」

「このたくましい胸板、綺麗にしてあげる」

「れろ...つ、れろつ、れろれろ、れろお...つ、れろつ、れるつ、れろつ、れろお...つ。れろつれる、れろ、れろつ、れろれろお、れろつ、れろお、れる、れるう、れろつ、れるれろおつ、れろれろおつ...。
こうして見てみると、お義兄さんって結構たくましい身体してるよね」

「れろお...つ、れろつ、れろれろお、れろお...つ、れろつ、れろれろつ、れろお...つ。
れるれろつ、れうれろお、れろつ、れろつ、れるう、れろお、れるれろつ、
れろれろおつ...」

「おにいさん、んっ、れろつ、れろお...くすぐったそうにしてる...つ、まあ、
んれろつ、れろつ、当然だよねえろおつ、れろお、れろつ、普通こんなところお、
れろつ、れろつ、舐められないもん。...ふふっ、今度は...」

「れろ...つ、れろおつ、れろれろつ、れろお...つ、れる、れう、れろつ、れろお、
れろお...つ。れろつ、れろれろお、れろつ、れるつ、れうう、れろつ、れる、
れろつ、れるれろお、れろれろおつ...。
どうしたのお義兄さん？ さっきよりもだいぶ反応大げさじゃない？」

「もしかしてえろつ、れろつ、れろお...つ、乳首弱い？ ふふっ...」

「さっきから乳首勃ってるのによくそんなこと言えたね～。ちょっと舐めただけなのに...すっかり感じちゃってんじゃない」

「あたしのせいって...あたしはただ、お義兄さんの身体を舐めて綺麗にしてあげてるだけだよ？ こうやって...」

「れろお...つ、れろおつ、れろれろつ、ずちゅうううつ、ちゅぷ...れろお...つ、
れるう、れろおつ、れろお、れろお...つ。じゅちゅうううつ、ぷあつ、れろつ、
れろお、れろれろお、ずちゅうう...つ、ぷう、れろおつ、れるうつ、れうう、
れろつ、ずちゅうううつ、ちゅぷう...つ、れろお、れる、れろつ、れるれろおつ...。
あれ～？ お義兄さん、乳首だけじゃなくこっちも勃起してない？ なんて
こんなにおっきくなってるとだろ～？ なんか、汗と違うのも出てきてるし...ふふっ」

「ズボンにシミ、出来てるよ？ まさかバレないと思ったの？ これ、我慢汁だよ ねえ？」

「ねえ、お義兄さん、すっきりしたいでしょ？」

//(ヒロインがフェラするシーン)

「したいよね～？
じゃあ...つ」

「あむっ...！」

「ん、ちゅちゅちゅむう...っ、れろれろお...っ、ちゅぶ、ちゅば、ちゅむ、ちゅむう...
れろれろれろお...れろちゅ、ちゅむ、ちゅばあ...っ、れろれろお、れろれちゅっ、
ちゅぶ、ちゅむ、ちゅむう、ちゅれろお...っ、れろれろれろお、れるれろれろれろっ、ちゅ、ちゅむ、
ちゅぶ、ちゅばあ...れろっ、れろっ、れうれろれろ...ちゅれろお、
れろれろお...っ、ぶはあ...」

「...お義兄さん、今更何言ってるの？ 脱がしてるときに抵抗しなかったんだから、
実は口でされるの期待してたんでしょ？ それに、これならセックスじゃないから
平気だよ。だからじっとしてて？」

「ん、ちゅちゅちゅむう...っ、れろれろお...っ、れろちゅぶ、ちゅばっ、ちゅむ、
ちゅむう...れろれろれろお...れろちゅ、ちゅれろ、ちゅむっ、れろれろお、ちゅむ、ちゅばあ...
っ、れろれろおっ、れろれちゅっ、ちゅぶっ、れろれろれるう...っ、
ちゅむ、ちゅむう、ちゅれろお...っ、れろれろれろお、れるれろれろれろおっ、
ちゅ、ちゅむっ、ちゅぶ、ちゅばあ...！
どう？ 気持ちいいでしょ？ あたし、こう見えてフェラ得意なんだ～」

「...ん、ずちゅちゅむう...っ、れろれろお...っ、ちゅぶ、ちゅば、ちゅむ、ちゅむう...
れろれろれろおっ...れろちゅ、ちゅむ、ちゅむっ、ちゅばあ...っ、れろれろお、れろ
れるう、れろれろおっ、ちゅっ、ちゅむ、ちゅ、ちゅば...っ、れるれちゅっ、ちゅぶ、ちゅむ、ちゅ
むう...っ、ちゅれろお...っ、れろれろれろお、れるれろれろれろっ、ちゅ、ちゅむっ、ちゅぶう、ちゅ
ばあ...れろっ、れろっ、れうれろれろ...
ちゅれろお、れろれろお...っ、ぶはあ...
段々反応良くなってきたね。ちんぽもお義兄さんも...」

「...あむ...っ、ちゅぶっ、ちゅむぶぶう...っ、ちゅぶっ、ちゅぶっ、ちゅむっ、
じゅちゅっ...！ じゅちゅっ、じゅむっ、じゅむう、じゅむ、じゅむっ...ちゅぶ、
じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶう...っ、じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶっじゅぶっ...！
じゅむう、じゅむっ、じゅぶぶう...っ！
先っぽからどんどん我慢汁溢れてくるっ...すごっ...」

「...あむ...っ、ちゅぶっ、ちゅむぶぶう...っ、ちゅぶう、ちゅぶっ、ちゅむうっ、
じゅちゅうう...！ じゅちゅっ、じゅむう、ちゅむう、じゅむっ、
じゅむう...じゅぶ、じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶう...っ！ じゅぶう、
じゅぶっ、じゅぶっじゅぶう...！ じゅむう、じゅむっ、じゅむう...っ！」

「...ちゅむ、ちゅむ、ちゅむっ...ちゅろちゅろちゅろちゅろ、ちゅろちゅろちゅろ... ちゅろちゅ
ろちゅろ、ちゅろちゅろちゅろちゅろ...」

「先っぽ責めた途端変な声出して...お義兄さん先っぽ弱いんだ～、いいこと
知っちゃった...っ！ もっとしてあげるね」

「...んっ、れろれろお...っ、れろれろれろれろ、れろれるれろれろ、れろれろっ、
れろれろれろれろお、れろれろれろれろれろれろお...っ、れろれるれろれろおっ...。
ほら、もっと声聞かせて...？」

「...あんっ、ちゅろちゅろちゅろ、ちゅろちゅろちゅろ、ちゅろちゅろちゅろ、ちゅろ、
ちゅろ、ちゅろ...れろっ、れろお、れろれろれろれろ...っ、れろっ、れろれろ
れろっ、れろれろれろれろれろれろお...れろっ、れろお、れろ、れろれろっ、
れろれろおっ...！
ふふっ...お義兄さん、フェラしてるだけなのに腰浮いちゃってんじゃん...そうだ...
たまたま一緒に刺激してあげる...！ その方がもっと気持ちいいでしょ？」

「...あむ...っ、ちゅぶっ、ちゅむぶぶう...っ、ちゅぶっ、ちゅぶっ、ちゅむっ、

じゅちゅっ...！ じゅちゅっ、じゅむっ、じゅむうっ、じゅむっ、じゅむっ...！
ちゅぶっ、じゅぶうっ、じゅぶう、じゅぶう...っ、じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶっ
じゅぶっ...！ じゅむう、じゅむっ、ずむう、ずちゅっ、じゅっぶうう...っ！
たくさん揉んであげるから、こゆ〜いせーしたっくさん作るんだぞ〜」

「...あむ...っ、ちゅぶっ、ちゅむぶぶう...っ、ちゅぶっ、ちゅぶっ、ちゅむっ、
じゅちゅっ...！ じゅちゅっ、じゅむっ、じゅむう、じゅむ、じゅむっ...ちゅぶ、
じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶう...っ、じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶっじゅぶっ...！
じゅむう、じゅむっ、じゅっぶうう...っ！」

「ちゅぶ、ちゅむっ、ちゅむっ、んんう...っ、ひいんぽびゅくびゅくしてひた...イキ
ひょう？」

//(フィニッシュシーン)

「ちゅぶ、ちゅぶう、ちゅむっちゅむっ...！ だひて...？ ちゅちゅむうう...っ、
ちゅむう、ちゅむうっ、このままくひでれんぶ受けひよめるから...っ！」

「じゅぶっ、じゅむっ！ ちゅむっじゅむっじゅむっ...！ ちゅぶっ、ちゅぶうっ、 じゅっぶっじゅ
ぶっ、じゅっぶっじゅっぶうっ！ じゅっばっ、じゅっば
じゅっばじゅっば...っ！」

「じゅぶううっ、じゅむううっ！ ちゅむっじゅむっじゅむうううっ...！ ちゅぶっ、 じゅむう、じゅ
むう、じゅむうう...っ！ ちゅぶうっ、じゅっぶっ
じゅぶっ、じゅっぶっじゅっぶうっ！ じゅむっ、じゅむう、じゅむう、
じゅむううう...っ！」

「んっ、んうっ...！ ん、んんっ、んう、ん〜〜〜〜っ...！」

「こく、こく、こくっ、こく...っ、ん、んう、んぐっ...。

「はあ、はあっ...お義兄さんてば出しすぎ...口に入りきらないかと思っちゃったじゃん。でも、お義兄さんの特濃せーし、すっごく美味しかったよ！ ごちそうさま...！
...こんなに出了ってことは、お義兄さんこの前した時から一回も抜いてなかったでしょ？ 我慢するのは身体に毒だよ？」

「もお、分かんないの？ そうゆうときにあたしを使ってよ。あたしのことは都合のいいセフレとかオナホくらいに思ってくれていいからさあ、溜まってきたらエッチしよう？ ねっ？
あたしたち、相性ばっちなんだからさ、やらなきゃ損でしょ。もはやこの相性の良さはたくさんエッチしなさいって、神様が仕組んだレベルだよ」

「その返事は、納得してくれたってことでいいんだよね...！ あたしも溜まってきたら声かけるからっ...そんじゃねっ！」

//トラック3

//(縁側でくつろいでいるヒロインがやってくるシーン)

「あれ？ お義兄さん、今日もここに居たんだ。最近ずっと居る気がするんだけど...もしかしてお義兄さん、あたしにエッチなことされるの期待してる？」

「ふふっ、そっか...お義兄さんもすっかり性欲に正直になったね」

「いいよ...いつものやつしょ？」

//(ヒロインがフェラするシーン)

「いつもみたいに寝ていいよ」

「じゃあ、脱がすね」

「うわ...っ、もうかなりおつきなってるじゃん、ふふっ。す〜ぐ気持ち良くしてあげるからねっ...！」

「ん、しょ...っ。こうして口でしてあげるのも何回目だろうね。もう何回もしてるからわかんなくなっちゃった」

「...っん、ちゅちゅちゅむう...っ、れろれろれろれろお...っ、ちゅぶ、ちゅぱっ、ちゅむ、ちゅむう...っ、れろれろれろお...れろちゅ、ちゅむ、ちゅぱあ...っ、れろれろお、れろれちゅっ、ちゅぶ、ちゅむ、ちゅむう、ちゅれろお...っ、れろれろれろお、れろれろれろれろっ、ちゅ、ちゅむ、ちゅぶ、ちゅぱあ...れろっ、れろっ、れうれろれろ...ちゅれろお、れろれろお...っ、ぷはあ...。ちょっと舐めたただけなのにもうすっかりガチガチだねえ」

「...あむ...っ、ちゅぶっ、ちゅむぶぶう...っ、ちゅぶっ、ちゅぶっ、ちゅむっ、じゅちゅっ...！ じゅちゅっ、じゅむっ、じゅむう、じゅむ、じゅむっ...ちゅぶ、じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶう...っ、じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶっじゅぶっ...！ じゅむう、じゅむっ、じゅぶうう...っ！」

「...っちゅむ、ちゅむ、ちゅむっ...ちゅろちゅろちゅろちゅろ、ちゅろちゅろちろちろ...ちろちろちゅろちろちろ、ちろちろちろちろちろ...。相変わらず先っぽ責めると情けない声出ちゃうんだねえ。もっとしちゃお〜っ」

「...んっ、れろれろお...っ、れろれろれろれろ、れろれるれろれろ、れろれろっ、れろれろれろれろお、れろれろれろれろれろれろお...っ、れろれるれろれろおっ...。姪のJKに口でされて情けない声出しながら、腰がくがくさせてるお義兄さんの姿を奥さんが見たらどう思うだろうね」

「今は奥さんのことは関係ないなんて言っちゃうんだ〜、この前まであんなに奥さん思いだったのに...。信じらんない。まあしょうがないか。今はもう本能に負けて、すっかり現役JKの生口まんこの虜だもんね」

「...あむ...っ、ちゅぶっ、ちゅむぶぶう...っ、ちゅぶう、ちゅぶっ、ちゅむうっ、じゅちゅうう...！ じゅちゅっ、じゅむう、ちゅむう、じゅむっ、じゅむう...じゅぶ、じゅぶっ、じゅぶ、じゅぶう...っ！ じゅぶうっ、じゅぶっ、じゅぶっじゅぶう...！ じゅむう、じゅむっ、じゅぶうう...っ！」

「え〜、もうイっちゃいそうなの〜？ お義兄さんはやすぎ〜。まだまだこれからなのに...。まあいいや...このままイかせてあげる」

//(フィニッシュシーン1)

「じゅぷううっ、じゅむううっ！　ちゅむっじゅむっじゅむうううっ...！
ちゅぶっ、じゅむう、じゅむうう、じゅむうう...っ！　ちゅぶうっ、じゅっぶっ
じゅぶっ、じゅっぶっじゅっぶうっ！　じゅむっ、じゅむうう、じゅむうう、
じゅむううう...っ！」

「ちゅじゅっ、じゅっ、じゅむうっ、うんっ...出ひて...っ！　んじゅっ、じゅむうっ、　じゅむっ...！　こ
のままちょーらい...？」

「じゅぷううっ、じゅむううっ！　ちゅむっじゅむっじゅむうううっ...！
ちゅぶううっ、じゅむう、じゅむうう、じゅむうう...っ！　ちゅぶうっ、
ちゅぶっ、じゅむうう！　じゅっぶっじゅぶっ、じゅっぶっじゅっぶうっ！
じゅむっ、じゅむうう、じゅむうう、じゅむううう...っ！」

「んんっ、んうっ、んっ、んんう、ん~~~~~...っ！」

「こく、こく、こくっ、こく...っ、ん、んう、んぐっ...」

//(満足できてないヒロインがお掃除フェラしてからそのままなし崩し的に
セックスするシーン　騎乗位、女性優位)

「っはあ...！　今日もいっぱい出たね...っ。
でも～、お義兄さんすぐイっちゃったから
...あたし、まだ満足できてないんだよねえ...」

「れろっ、れろっ、れろっ、れろっ、れろ...っ、れろれろれろれろお...れろっ、
れろっ、れろおっ、れろおっ...！
何驚いた顔してんの？　エッチするためにちんぽ綺麗にしてるんだよ。せーしついた
ままじゃ、いろいろまずいからさ。まだまだ出来るでしょ？」

「まさかお義兄さん、今日もフェラだけで済むと思ってたの？　いつもお義兄さん
ばかり気持ち良くなってんじゃん。さすがのあたしももう限界なんですけど」

「口ではそう言ってるけど、ちんぽはもうすっかり勃起して、まんこの中
入りたいって言ってるよ？」

「ねえ？　お義兄さんお願い...久しぶりにエッチしようよお...っ、奥さんもう少しで
こっち来ちゃうんでしょ？　これで最後にするからあ...」

「やったあ...っ、ありがとっ...！　それじゃっ、この間みたいにあたしが上になって
入れちゃうね...！」

「...あっ、その前にゴム着けなきゃ」

「こうしてゴム着けてあげるのもちよっと久しぶりだね。
...よし、それじゃ、入れちゃうよお...っ」

「はあああ...っ、んっ、はあっ、久しぶりのちんぽおっ...あつつうい...っ！
久しぶりだからかなあ、まんこがちんぽ離したくない～って、きゅうきゅう
締めつけちゃってる...。しばらく出来なかった分、めっちゃ激しくするから
覚悟しててよね」

「あっ、はあ、はあ、あ、あっ、ああ、あん...っ、ああっ、はあ、ああ、ああん...っ、　やっ、やあ、あっ、
ああ、あっあっ、ああっ...！　あっあうっ、んあっあっ、あっ

あつあ...っ！ はあつ、ああつ、あつ、あつあつん！」

「きもちい...っ、あはああつ、はあつ、きもちいっ...よお...っ！ あつ、はあつ、はあつ、あつあつ、ああつ、あんっ...あはあつ...！」

「はあつ、あつ、あつ、あうつ、あつあつ.....！ あつあつ！ はあつ、ああつ、あつ、あつあつんあ！ あつあうつ、んあつあつ、あつあつあ...っ！ はあつ！ あつ！ はあつ、あつ！ ああうつ、あつあつ！ はあつ、はあん...っ！ あんんっ、んあつ、あう、あう、あつあつ、あつあつ、あん.....っ！ やっぱお義兄さんのちんぽさいこお...っ」

「あ、あたしのまんこににあつ、ひやあつ...！ ぴったりはまって、相性ばつちしい... っ、はあつ、ひやああつ、ああつ、あん...っ！ 腰止まらああんっ、なあいい...っ」

「まだまだ全然足りない...っ、あつ、ひや、はあつ、ああつ！ あたしのことおおんっ、あん、んあつ！ もっと気持ち良くしてっ...？」

「はあつ、あつ、あつ、あうつ、あつあつ.....！ あつあつ！ はあつ、ああつ、あつ、あつあつん！ あつあうつ、んあつあつ、あつあつあ...っ！ はあつ！ あつ！ はあつ、あつ！ ああうつ、あつあつ！ はあつ、はあん...っ！ んんっ、んあつ、あつあつ、あん.....っ！ ふふっ...お義兄さんすごく気持ちよさそうな顔してる...ねえ？ 奥さんとどっちが気持ちいい？」

「ふ～ん、はぐらかしちゃうんだ～」

「そんなことするなら...イかせてあげないよ？」

「ほら、はやく素直になっちゃいなよ。ちんぽもイきたそうに震えてるよ？」

「それだけじゃダメ...っ、ちゃんと言って？ 奥さんとするエッチよりも恋人でも何でもないあたしとするエッチの方が気持ちいいって」

「はやくう...っ！」

「ふふっ、よく出来ました...っ。約束通り、たっぷりイかせてあげる...！」

//(フィニッシュシーン2)

「はあつ、あつ、あつ、あうつ、あつあつ.....！ あつあつ！ はあつ、ああつ、あつ、あつあつん！ あつあうつ、んあつあつ、あつあつあ...っ！ はあつ！ あつ！ はあつ、あつ！ ああうつ、あつあつ！ はあつ、はあん...っ！ んんっ、んあつ、あつあつ、あん.....っ！」

「はあつ、ひやつ、ああつ、ちんぽの先ぶくーって中でおつきくなったらああんっ...！ イ、イっちゃうよお...っ！ おにいさんもイっちゃいそうなんでしょ？ イ、イこ...？ 一緒にイこっ？」

「あつ、あつ、はあつ、ん、んあつ、あうつ、あつあつ。あつ、ああつ、あうつ、あつ、ああつ.....！ はあ、はあつ、ん、んっ、あんっ、あつ、ああつ、あつあう...っ！ あつ、あつあつ、ああつ、あうつ、あ、あつ、ああんっ、あつあつ.....！」

「はあ、ああつ、はあつ、あんっ、あつ、んっ、んっ、ああつ.....！ あ、あたひもおつ...ああつ、はあつ、はあつ！ あつあつあつ！ いくつ、いくいくいくいぐ...っ！ イっちゃああ.....っ！ ああつ、ああつ、ああつ！ あつ、あつ、ああああつ.....いく...っ！！」

「はああああつ、はあつ、はあ、ああつ...んう、んんんん～～っ.....！」

「はあ、はあ、はあ、はあっ、はあ...っ、ゴム貫通しちゃうんじゃないかってくらい
勢いよくせーし出てる...っ、あたしも初めて中イキしちゃった...お義兄さんのちんぽ、気持ちよ
すぎ...あたしたちほんと相性ぴったしじゃん。
...だから、これからは性欲発散のためにさ、エッチしようよ。奥さんとするよりも
気持ちいいんだから、いいよね？」

「これで最後にするってのは嘘に決まってるじゃん！ ...そういうことだからさ、
お義兄さん、またしようね...！」

//トラック4

//(縁側でくつろいでいると当たり前のようにヒロインが現れ、誘惑してくるシーン)

「やっほー、お義兄さん。隣座っていい？」

「ありがとっ」

「はあ...」

今日は一段とあっついね〜」

「暑けりゃ来なさいいいのになって...お義兄さん、それは違うよ〜」

「あたしは暑くても毎日来るよ？ そこにお義兄さんが居る限り...。お義兄さんに会いたいからね」

「ちゅっ...。
今のお義兄さんなら、あたしがどうして会いたかったか分かるでしょ？」

「そう、正解...。
ねえ？ 奥さんって確か、昨日こっちに来たんだよね？ 一緒に居ないってことは今は居ないの？」

「へえ、買い物に行ってるんだ〜、ふふっ...。
じゃあさ、サクッとやっちゃう？ 気持ちいいこと...」

「もお、分かてるくせに...いいでしょ、お義兄さんと一緒に居れる時間も残り少なくなってきたんだし、少しでもやっておきたいじゃん？」

「奥さんさっき行ったばっかなんでしょ？ あたしのテクでお義兄さんなんてあつという間にイかせちゃうからさ。絶対奥さんが帰ってくる前には終わるよ」

「今まで20分以上耐えれたことある？ ないでしょ？ はい、じゃあ決まりね」

//(ヒロインとセックスするシーン 騎乗位 女性優位)
「今日はどの体位ですか？」

「騎乗位ね、おっけー。お義兄さんほんとに騎乗位好きだね。あたしも好きだからいいけど。じゃ、お義兄さん、そこに寝て」

「んっ、しょ...」

「お義兄さんもうこんなにおつきくなってんじゃん。なんだかんだ言って期待してたんだ...」

「お義兄さんともう何回もエッチしちゃってるからこうやってゴム着けてあげるのも当たり前になっちゃったね。
...ゴム着けたから入れちゃうよ」

「はああああ...っ、ああんっ...」

「あっあっ、んんうっ、はあっ、ああっ、はあっ、あうっ、あっ、あんっ！

あっあつ、ああつあつ！ んっ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ...！
はあつ、はあつ、んっ、んう...っ！ んんっ、あつ、あうっ、あうっ、んあつ、
あつあつ！ ああつ、あつあつ！ はあつ、ああつ、はあつ、ああんっ、
はあん...っ！」

「ねえ？ おにいさ、ああんん...っ、あたしたちエッチするたび、ひゃ、はあ、ああつ、んう...っ、相性良くなってると思わない？」

「お互いの気持ちいところが分かってるからかなあ...。奥さんとじゃこんな気持ち良さを求めたエッチ出来ないでしょ？」

//(フィニッシュシーン1)

「あつあつ、はあつ、ああつ、あうっ、あつ、あんっ！ んっ、んあつ、あつ、
ああつ、はあつ、はあつ、んっ、んう...っ！ あつ、あうっ、あうっ、んあつ、 ああつ、あつあつ！
はあつ、はあつ...。
えっ、もうイっちゃいそうなの？ さすがに早すぎない？ ふふっ、過去最速じゃん。あたしのまんこがそんだけ気持ちいいことだからいいけど」

「あつあつ、んんうっ！ はあつ、ああつ、はあつ、あうっ、あつ、あんっ！
あつあつ、ああつあつ！ んっ、んあつ、うあつ...！ あん、あつああつ、
あつああつ...！ はあつ、はあつ、んっ、んう...っ！ んんっ、あつ、あうっ、
あうっ、んあつ、あつあつ！ ああつ、あつあつ！ はあつ、ああつ、はあつ、
ああんっ、はあん...っ！
いいよ、好きに出して...っ」

「あつあつ、んんうっ、はあつ、ああつ、はあつ、あうっ、あつ、あんっ！ あうっ、あつあつ、ああつ
あつ！ んっ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ...！ はあつ、はあつ、んっ、んう...っ！ んんっ、
あつ、あうっ、あうっ、んあつ、あつあつ！ ああつ、あつあつ！」

//射精音

「はあ、はあ、はあつ...今日もたくさん出したね～。お義兄さんは満足そうだけど、
あたしはまだ満足できてないよ...？」

「当然でしょ。お義兄さんあんなに早くイっちゃうんだもん...でもそのお陰で
もう一回できるね！」

「何ビビってるの？ まだ時間余裕あるでしょ？ちゃんとあたしも満足させてよ。
...それに、満足できてないのはお義兄さんも一緒だと思うけど？」

「たった今こんなに出したとは思えないくらいもうギンギンだよ？ 迷ってる時間
ないし、もうやっちゃうよ...って、もうゴムないじゃん...っ。う～ん...もうこの際
生でいっか...！ あたし今日だいじょぶな日だし、せーし外に出せば完璧でしょ」

「もお、このタイミングでためらわないでよね。こうゆうのは勢いが大事なの。
早くしないと奥さん帰ってきちゃうんだから、サクッとやっちゃお...っ！」

//(満足できてないヒロインと二回目のセックス 騎乗位 途中から対面座位)

「はああ...っ、生だと全然違う...っ！ まだ入っただけなのにっ...
こんな気持ちいの、初めて...っ」

「あつあつ、んんうっ、はあつ、ああつ、はあつ、あうっ、あつ、あんっ！
あうっ、あつあつ、ああつあつ！ んっ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ...！ はあつ、はあつ、
んっ、んう...っ！ んんっ、あつ、あうっ、あうっ、んあつ、
あつあつ！ ああつ、あつあつ！」

お義兄さんの熱いの直接感じるよお...っ」

「はあ、はあつ、ああ、生でエッチするのってこんなに気持ちいいんだああん...っ、
はあ、あ、あつ、ああつ...おにいさんとだから尚更気持ち良くてあだし、
もう戻れないかもお...っ」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんっ！
あうつ、あつあつ、ああつあつ！ んっ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ...！ はあつ、はあつ、
んっ、んうう...っ！ んんっ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、
あつあつ！ ああつ、あつあつ！
生でもあたしたち相性最高だねえ...」

「ん～、何の音～？」

「ひゃっ...！ おっ、お義兄さん！？ 急に慌ててどうしたの...？」

「えっ！？ 奥さん帰ってきたって...や、やばっ...！ 早くしなきゃ！ ほら、
お義兄さんも動いて...！」

「はあつ、ひや、ああ、やつ、やあ...っ！ 急に体勢変えちゃっ...だめっ...」

「お義兄さんてば大胆だね...急に抱き寄せられて、ちょっとドキドキしちゃった...っ」

「ううん、お義兄さんが動きやすいならこのままでいいよ。たくさん動いて...？」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんっ！
あうつ、あつあつ、ああつあつ！ んっ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ...！ はあつ、はあつ、
んっ、んうう...っ！ んんっ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、
あつあつ！ ああつ、あつあつ！」

「はああんっ、あつ、ああつ！ 抱き合ったまましていると、ちんぽがお腹の裏側
ごりごり当たってえ、ああつ、はああつ！ 気持ちいい、気持ちいいよお...っ！
はあつ、はあつ、あつ、あつ！ こ、声止まんなつ、ああつ！ はあつ、んっ、
あつあつ！」

「こんな気持ちいいのにつ、はあつ、あつ、あつ...声、抑えられるわけっ、あああつ、
あつあつ...！ ないよお...っ！ おにいさあん...っ、口、くち...ちゅーで塞いで？ はあつ、
ああつ」

「はあつ！ あ...っ、んちゅ、んん...っ！ ちゅっ、ちゅう、んっんっ！
んちゅ、ちゅっ、ん、んっ、あん...っ！ んっ、ちゅ、ちゅう、んう...ん、んっ、
ちゅちゅう.....んっ、んうつ、んっんっ.....！ んはあつ、んちゅっ、んっ、
んん...っ！」

「はあつ！ あ...っ、んちゅ、んん...っ！ れろちゅっ、れろれろお、ちゅう、んっ んっ！ ん
ちゅ、れろれちゅっ、れろれろ、んっ、んうつ、あん...っ！ んっんっ、
れろれちゅ、れろちゅう、れろれろれるれうう、んう...ん、んっ、れろれちゅ
ちゅう.....んっ、んうつ、れろちゅう、れれろちゅっ、れろれちゅうう、
んっんっ.....！」

//(フィニッシュシーン2)

「イっちゃう...？ いいよ...あたしもイっちゃいそうだからっ...一緒にイこ...っ？」

「はあつ！ ああ...っ、んちゅ、れろれちゅっ、れろちゅっ、ちゅう、んん...っ！
れろちゅっ、れろちゅ！ れろれろお、ちゅう、んっんっ！ んちゅっ、
れろれちゅっ、れろちゅ、ちゅれろお、れろれろお、はあ、あんんっ、んうつ、

あん...っ！ んっんっ、れろれちゅ、れろちゅう、れろれろれるれうう、んう
...ん、んっ、れろれちゅちゅう.....んっ、んうっ、れろちゅう、れれろちゅっ、
れろれちゅううう、んっんっ.....！！」

「はあ、あんっ、んちゅっ、ちゅ、んうっ、んっ...！ ちゅ、ちゅっ！ んんうっ！
んんんんん〜〜〜.....！！」

「はあ、はあっ、はあっ、はあああ...っ。

「あ、あったかあい...中に出されるってこんな感じなんだあ...っ、お義兄さんのせーして
中いっぱい...っ」

「...たっぷり中に出されちゃったわけだけど、お義兄さんにはどう責任取って
もらおっかな〜」

「そうだ...奥さんと別れてあたしと結婚するとかどお？」

「うそうそ、冗談に決まってんじゃん。心配しなくてもそんな簡単に赤ちゃんなんて
出来ないでしょ...最悪ピル飲むし。
そんなことより早く服着て片付けないと、ほんとに奥さんと別れることにな
っちゃうよ？ ふふっ...！」

「てかさ、さっきのめっちゃドキドキしたね？ あたし、あんなスリルのあるエッチ
したの初めてでいつもよりちょっと興奮しちゃった...！
なんか、今日のことしばらく忘れらんないかも...っ」

//トラック5

(エピローグ)

//(帰るまでの時間を縁側で過ごしているとヒロインがやってくるシーン)

「おにいさん...っ！」

「今日であっちに帰るんでしょ？
今日までいろいろあったけどめっちゃ楽しかったね♪」

「今度はあたしがそっち遊びに行っちゃおっかな〜？」

「もお、お義兄さん何言ってんの？ 普通にそっちに遊びに行くだけだよ〜、
そっち楽しそうだし。
あー、お義兄さん、エッチなこと期待しちゃった〜？ ふふっ...」

「最後の最後にやっとく？」

「うそうそ、冗談だってば、ごめんごめん。
あ、でも、楽しかったのはほんとだよ。だから次帰ってくるのも楽しみにしてる」

「次はいつ帰ってくるの？ 年末？ 来年の夏？」

「ふ〜ん、まだ分かんないんだ。まあ、それでも、帰ってきたらまたおまんこ使わせて
あげるからさ、使いたくなったら帰ってきなよ...！ ふふっ♪」

「あっ、もう行くんだね、おっけー。
じゃーねー、お義兄さんっ...！ またこっち遊びに来てねー♪」